

するものをいふ即ち工場の主たる作業は勿論之に關係ある作業なり例之場内運搬工場の設備の手入修護等の勞役に從事するものを包含す。

○西オーストラリヤにおける鐵道建設 Lake Grace 鐵道最近布設せられた農業用鐵道にして延長二五哩開業式に臨みたる同國首相は演説して曰く最近四個年半の間に政府は約九〇〇哩の鐵道を布設し其建設に要したる費用は全く正常のものにして且つ此種の政策を維持することは農業の爲め將た國家の爲め最も適當なる所置なりと而して今回開通したる新線路は Wangan-KuKerin 及び Lake Grace 地方の移住民に取りては小麥及び他の生産物を容易に市場に運搬する爲めに久しく期待せられつゝありしものなり。(Railway age gazette Sep. 29, 1916. T.)

○各國鐵道概觀 世界各國に於ける鐵道事業に就き米國鐵道統計は左の如く掲載せり(但し歐洲交戰國は戰前我國は大正三年度米國は一九一五年度なり)

一、資本額

米國	三一、四〇六、一六三、九四三圓	▲英國一二、九九三、二六八一、五二	▲獨逸九、一六〇、八〇八、〇八四	▲佛國七、四四〇、九六〇、〇四二	▲露國七、〇一七、三五一、八九〇	▲墺國三、四四八、一五八、三〇四	▲勾國一、八九九、一六三、六四〇
白國	一、〇四一、五五四、一〇六	▲日本一、〇〇六、九二三、〇八九					

二、營業哩數

米國	二四七、三一二哩	▲露國四、一六二二	▲獨逸三七、八五四	▲佛國二五、一九四	▲英國二三、六九一	▲墺國一四、一八五	▲勾國一三、三〇三	▲日本五、六三三	▲白國三、九一三
----	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------

今之を國土の面積及び人口に照し其割合を求むれば。

一平方哩當哩數

白國	四三哩	▲英國一九、三	▲獨逸一九、〇	▲佛國一五、三	▲墺勾國一〇、九	▲露國一〇、九	▲米國七、一	▲日本二、七
----	-----	---------	---------	---------	----------	---------	--------	--------

一哩當人口

誌會學工

即ち我國は面積の割合に線路最も短きに反し、線路一哩當人口最も大なるは列強に比し、我國鐵道事業の如何に貧弱なるかを示すものと云ふべく、尙營業一哩當資本額を算出すれば左の如し。

日本五、四、八、七人▲露國三、三、六〇▲英國一、九、四、三▲塊勾國一、七、九、二▲獨逸一、六、九、八▲白國一、五、五、六▲佛國一、

英國五四八四四八頭▲白國三八五、五四〇▲佛國二九七、二五〇▲埃及二四三、〇八四▲獨逸二四〇、七一〇▲日
本一七八、七五四▲露國一六八、五九八▲匈國一四五、五八四▲米國一二六、九九〇

三、收

旅 客 收 入	货 物 收 入	比 較
一、二〇七、六五〇	四、〇九三、〇九四	二四分七六分
一、四五四、四三四	一、二三八、二一八	二七分七三
一六九、三六三	七一八、〇三八	一九分三一
五五四、九六四	七六六、九〇七	四二分五八
三三四、七一七	四〇八、五四六	四四分五六
一〇九、七八二	三五〇、九四六	三四分七六
六〇、七九九	一七〇、五六三	二六分七四
三九、七一三	八八、一六五	三一分六九
五四、六七一	五一、七五〇	五一、四九

以上の數字に依りて之を見れば列強中我國のみ旅客收入は貨物收入よりも大にして其割合五一：四九を示せり、是れ本邦工業不振を示すものなり、歐洲開戦後船腹不足の爲貨物の鐵道に依るもの增加したると一般貨物運送の増加は昨年度より漸く收入の割合を轉倒して列強並となし、貨物收入が旅客收入より超過するに至れり。

雜

記

四、就業員數及給料平均年額

一、七四〇、三三六人

一、六五〇圓

七八六、四六六

八一八

七七一、九三八

四一三

六四三、一三五

五五九

四六二、五九〇

四一七

一一〇、一一〇

六六〇

一四七、一九四

六〇一

一一四、九六四

二三〇

七一、九〇七

五一

米露英佛埃及日本國造國國國國國

組織及行政の項目中には左のものを掲げ度存候。

A. T. Hadley, Railroad Transportation; Putaruns, 1885.

之に依りて見れば一人當給料は米國最も多く我國は最も少し今線路一哩に付就業人員を見れば平均十八人にて白耳義最も多く二十八人を示し米國最少にして僅に七人なるか我國は二十人に當る。

○鐵道に關する良著に就て 左記米國ハーヴアード大學教授カニンガム氏選定に係る「鐵道に關する良著一覽表」は目下米國ボストン、マーン鐵道會社在留中の鐵道院參事種田虎雄氏より同院副參事芳賀彌吉氏へ宛て報道せられたるものにて鐵道院業務研究資料より轉載せり。

近頃サンタフェ雑誌主筆より鐵道に關する良著一覽表の所望に接し候處抑も此種の一覽表調製上其選擇に際し表中より除外することは之を掲記するに比し寧ろ困難とする處に有之候間自然有益なる著書と雖も表中に漏るゝものも相生し候事は蓋し不得止へく從て本一覽表に掲げざる著書は研究の價値なきものとの意味には無之唯一覽表の冗長を避くる爲め其全部を掲げざりし次第に有之候。